

山梨県衛生環境研究所年報

令和 6 年 第 68 号

Annual Report of the Yamanashi Institute
for Public Health and Environment

No. 68, 2024

山梨県衛生環境研究所

はじめに

山梨県では「県民一人ひとりが豊かさを実感できる山梨」の実現に向け「ふるさと強靭化」「開の国プロジェクト」を二本の柱に掲げ、施策に取り組むこととしております。

こうした中、山梨県衛生環境研究所は、公衆衛生や環境に関する県内唯一の公設研究機関として、県民の健康と環境を守るために、感染症や食中毒の原因究明やまん延防止、食品や医薬品の安全性の確保及び大気・水質・土壤の汚染防止などの様々な行政検査や調査研究に取り組んでおります。

さて、世界的に猛威をふるった新型コロナウイルス感染症が令和5年5月に法律上5類感染症に分類され、ひとつの節目を迎えました。厚生労働省では、コロナ禍をふまえ、新たな感染症や再興感染症の発生を迅速に探知するために、この4月から急性呼吸器感染症（A R I）サーベイランスを開始しました。本県においても、毎週医療機関から検体を採取し、それを当所において迅速に検査を行うことで、新たなウイルスの把握に努めております。

このように感染症、災害、環境等の公衆衛生に関する様々な問題は多様化、複雑化、広域化が進み、研究所を取り巻く環境も大きく変化しております。我々は、常に危機意識を持ちつつ、この多様化する行政ニーズに的確に応えることができるよう、関係機関との連携を図りつつ機能強化に努めて参ります。

また、検査体制の充実強化のために、引き続き、実践型訓練や精度管理への参加等を通じて人材を育成し、職員一同研鑽に励み能力向上を図って参りますので、一層のご理解とご支援をお願いいたします。

このたび、「山梨県衛生環境研究所年報第68号」として、令和6年度の業務概要と調査研究の成果を取りまとめました。御高覧のうえ、忌憚のない御指導・御助言を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年12月

山梨県衛生環境研究所
所長 岸本里香

目 次

I	組織と沿革	1
II	業務報告	
	企画情報科・総務スタッフ	2
	生活科学部	7
	微生物部	9
	環境科学部	12
III	資料	14
IV	論文抄録および学会発表	27
V	研究報告	29
	自然毒を原因とした食中毒事例を想定した有毒成分の機器分析法に関する研究	30
	山梨県におけるインフルエンザウイルスの検出状況（2024～2025）	34
	ほうれん草とアサリの煮物が原因と考えられたウエルシュ菌による食中毒事例	38
	山梨県における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発生状況について（2024年）	41
	河口湖、精進湖、本栖湖の有機物起源に関する研究	43